

**明けましておめでとうございます**



昨年中は読者の皆様には大変お世話になりました、また本誌のご愛読誠にありがとうございます。

私自身、昨年を振り返ってみると、例年以上に色々な事に挑戦をした1年でした。

年から年中新しい事にチャレンジし同業他社さんから「あいつは馬鹿か?」と後ろ指を指されようとも、ガーデンニュース読者を初め仕事を受注して下さる大切な

顧客の皆様、そして仕事を手伝ってくれる強力な職人仲間の力強い後押しがあってこそ初めて勇気を出して

チャレンジをする事が出来ます。

何を言われようとも、私自身間違えた事は一つしていないと言う自信がありますし、これからも自分の言動に責任と誇りを持って逃げも隠れも一切しない覚悟で全力で1年間走っていきたくと思います。

今年もこれまでと変わらず、多くのお客様に支持され、愛される会社であり続ける為に、私自身思い上がる事無く、ただひたむきに学び、実践し、この仕事を人一倍愛する人間でありたいと思っています。

また新年早々、多くの読者から新年のご挨拶を戴きました。お一人お一人にお返事が出来ず大変恐縮しております、この紙面をお借りして新年のご挨拶に代えさせて頂きます。今年も宜しくお願い致します。

## 捨てられゆく物に価値を見い出す「職人の技と知恵」

今の世の中に比べ、昔の日本は物資が乏しく、お庭や外構(家の周囲の土木工事)を行うにも、その場にある物を上手に使いながら限りある資材を大切に扱ってきたと言います。

それは古さや見苦しさなど微塵も感じる事は無く、むしろ良い素材を高い職人技で大事に受け継いだものづくりの美しさは、今でも色あせない輝きを放ち続けています。

物が無いから工夫が生まれ、職人の技と知恵が磨かれる。

世界が認める日本の職人技術は、日本人の勤勉さと真面目さ、そして資源を大切に使い切るMOTAINAI(もったいない)の精神があったからこそだと思います。

近頃、住宅業界でも古民家の再生を行うなど、価値ある資材を見出し再利用する考えが定着し、消費者に受け入れられるようになってきました。



解体時に出た古瓦で坪庭制作、材料費0で施工も唸る仕上がりに

これまで捨てられていたものが、資源として生まれ変わり高い価値を持って再利用される事は、地球環境に対してだけではなく、使い捨ての資源浪費から、良い物を大切に長く使う事の大切さを次の世代に伝える事になると思います。

確かに捨てる技術も大切です、そして何より新しい素材やデザインを取り入れる事は当然必要です。

しかし私達は、3月11日の震災で学んだ豊かさとは何かについてももう一度深く考え、限りある資源に磨きをかけ再利用する事で「こんな使い方が出来たのか!」とお客様に唸って戴ける提案と技術の向上を業界全体で考えていかななくてはならない時期に来ているのではないかと感じています。

価値ある物でも、知らずに捨てればただの産業廃棄物、上手に使いえば見事な建築資材として再利用出来る物は決して少なくないのです。

少しでも無駄なコストを減らし、今ある物を効果的に無駄なく使う事が、お財布と地球に対して最も優しいやり方であり、これから生きる若き職人に課せられた大きな宿題であると思うのです。



## 家づくりは総合計画が大事



消費税の増税が現実味を帯びた昨今、私共の所にも「家づくりを開始したいのでその外構予算を組んでほしい」と言う御依頼が増え始めています。

とは言っても、家づくりと庭・外構工事を設計の段階から考え、ある程度予算取りを行うという用意周到な方は極めて少なく、大半の方は住宅建築の完了が見えてきた時期に、庭や外構の必要性に初めて気づき、慌てて準備を開始する人が極めて多いのが残念でなりません。

これは、住宅会社の罪が非常に大きく、自社の売り上げを最大化する事に重点を置き、追加工事を推奨し、当初の予算配分などなし崩しの状態で建築が進められている実態に問題があります。

そもそも家を作ろうとしている人に、庭や外構を含めた全体像を描く事など不可能なことです。

家づくりに頭が一杯で、それに夢中になっている人に、自分で気づけと言う方が無理な話なのです。

でも、そこはフコである人間が、お施主様に対して建築が終了してから生活を送る場面までイメージできる様に方向性を指し示してあげる義務と責任があると思っています。

住宅の設計然り、予算計画然り、そんな将来に繋がる大事な話が抜け落ちている事があまりに多い。

後になって駐車スペースが無い・・・高低差がありすぎる・・・そして借入れの問題・・・

家は建築が始まってしまったら大きな変更はそう簡単には出来ません。

それにも拘らず家の設計に外構プランが全く組み込まれていないのは「家を建てた後は知らないよ」と言っているのと同じに私は聞こえます。



家の設計段階から庭や外構の事まで深く考える必要はありませんし、それは無理な事です。しかし、住宅会社の言うなりに住宅建築を進めるのではなく、ある程度の予算取りと生活のイメージ、限られた土地の利用方法を自分なりに考えた上で住宅の建設に挑めば、建築会社さんも賢いお客としてド素人扱いはしないと思います。

一生の買い物です、ガーデンニュース読者に後で後悔だけはして戴きたくありません。後の祭りにならない様に多少面倒な事でもやるべき事はしっかりやって戴きたいと思います。

## 地域の絆を地域の学校から発信

昨年末、私たちの会社と地元の小・中学校3校のPTAが協力し、年末恒例の大門松づくり事業が行われました。

今年で4年目を迎えたこの行事は、竹の切り出しを地域と学校で、技術指導と材料の支給を弊社で、人員をPTAが集めると言う、学校と企業と



地域が共に協力して行われている地域の繋がりを復活させる起爆剤的行事として注目を集めています。

本職の庭師でも門松の作り方を知らない人が多くなる昨今、一般の皆さんに門松の由来や作り方の一部を学んでいただく事は、日本の文化を後世に伝えていく小さな一歩だったと思っています。

今後も地域に生かされる企業として、地域の為そして子供達の為に新しい試みを積極的に取り組み、より一層の地域の絆を強固な物にしていきたいと思っています。

今回、地元の多くの皆様のお力をお借りする事で門松制作事業は大成功に終わる事が出来ました事を、この場をお借りして深く深く感謝申し上げます。

## あなたに贈るねぎらいの言葉

まず思い込むことが大事なんだよ、何をやるにしても。  
世の中のほとんどのことには、正解なんてないんだから。  
面白いとか正しいとか、何でも思い込んだもん勝ちだよ。

小牧で創業60年、技術継承300年

庭造り支援センター(株)仲根石工造園

tel 0120-31-2829

fax 0568-79-8215

e-mail info@niwasien.com

HP 庭造り支援センター 検索

